

なぎさ会館の廃止について

なぎさ会館は、令和6年度事務事業評価において、D評価（廃止を検討する事業）とした。令和7年4月15日の区民委員会で報告したとおり、事務事業評価の結果を踏まえ、廃止について検討を進めてきた。

検討の結果、下記のとおり、なぎさ会館は、令和8年3月末をもって、閉館することとしたため報告する。

記

1 現状および廃止の理由

(1) 利用率

利用率は、開館当初から平成18年度まで施設の稼働率は60パーセント以上であったが、臨海斎場の開場後（平成16年1月～）は、下落傾向にある。

また、なぎさ会館が開館した30年以上前と比べ葬儀に対する区民ニーズが変化し、葬儀が小規模化（1日葬、家族葬等）し、さらにコロナ禍を経て、その傾向が加速した。その結果、令和6年度の利用率は26パーセントまで低下している。

なぎさ会館の利用件数および利用率							
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
利用件数(件)	240	131	131	214	159	153	49
利用率(%)	39.7	21.6	21.6	29.5	29.7	26	17.6

※R2・3年度は、コロナ対策のため、件数が少ない。R7は、9月末現在

(2) 収支状況

利用件数の減少に伴い歳入が減る一方、建物改修や維持管理等により経費負担が発生し、赤字経営が継続している。

	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度予算
歳入(千円)	15,600	8,515	8,515	13,910	10,335	9,995	14,300
歳出(千円)	33,315	37,153	63,404	33,928	63,950	34,131	35,624
差額	-17,715	-28,638	-54,889	-20,018	-53,615	-24,136	-21,324

(3) 臨海斎場の拡充

臨海斎場では、令和8年1月に式場4室（年間1,400件の枠）を、令和12年度に更に4室（年間1,400件の枠）を増室予定であり、なぎさ会館の利用件数（令和6年度実績153件）を補填することが可能である。また、使用料は35,000円で提供される。（なぎさ会館の使用料は65,000円）

臨海斎場の整備計画			
	現 在	令和8年1月～	令和12年度～
式 場	4室 (年間1,400件)	8室 (年間2,800件)	12室 (年間4,200件)
火葬炉	10基	—	20基
保冷库	24庫	—	44庫

2 検討の経過

- (1) 議会（令和7年4月15日）
区民委員会で、「なぎさ会館の現状と課題」について報告
- (2) 地域（令和7年6月～7月）
利用者の多い大井第一～第三地区および八潮地区の町会長・自治会長会議にて説明
- (3) 東京都葬祭業組合品川支部（令和7年8月）
廃止に向けた検討状況の説明
- (4) 学識経験者（品川区区民保養所あり方検討会委員長 明海大学不動産学部教授）
行政の不動産は、今後再編、整理、圧縮が求められる中、なぎさ会館については、現状や臨海斎場の増設を踏まえると、廃止という結論が妥当である。
- (5) 臨海斎場（令和7年8月）
臨海部広域斎場組合事務局と、なぎさ会館の廃止とその影響について協議。臨海斎場における支障なし。
- (6) 庁内関係課との協議（令和7年8月）
関係各課と協議。廃止による影響の有無、廃止後の管理や事務手続上の注意点について確認。廃止による影響は特段なし。

3 閉館日

令和8年3月31日

4 今後のスケジュール

- (1) 令和7年11月下旬 区民委員会（条例廃止の議案審査）
- (2) 令和7年12月 令和7年第4回定例会 条例廃止の議決
区民、葬祭事業者へ周知（HP、広報しながら、戸籍住民課窓口）
- (3) 令和8年3月31日 閉館

※跡地活用については、行政需要や地域ニーズなどを総合的に勘案し検討する。